

立山通学合宿

～自学・自主・自立の心を育てるあしくらじゅく～

1 ねらい

- 規則正しい生活をするこゝで、基本的な生活習慣を身に付けるとともに、自主学習の習慣化を図る。
- 自分のことは自分で行うこゝで、自主性や自立心を育てる。
- きまりを守り、仲間を思いやりながら集団で生活するこゝで、社会性や協調性を育てる。

2 期 日

- ① 平成28年11月 6日(日)～11月12日(土) 6泊7日
- ② 平成28年11月13日(日)～11月19日(土) 6泊7日

3 対 象

- ① 日中上野小、利田小、釜ヶ淵小、立山小の4～6年児童
- ② 立山中央小、高野小、立山北部小の4～6年児童

4 参加人数／募集人数

- ① 37名(男子12名、女子25名)／40名
- ② 44名(男子19名、女子25名)／40名

5 講師・スタッフ

富山大学天文同好会	5名	富山県〔立山博物館〕職員	2名
ワイルドアイズ	1名	アルペンスキー指導者	1名
法人ボランティア	3名	国立立山青少年自然の家職員	

6 後援・協力

後援：立山町教育委員会
 協力：富山大学天文同好会（「立山タイム」星についての学習）
 富山県〔立山博物館〕（「立山タイム」立山の歴史についての学習）
 ワイルドアイズ（「立山タイム」野生生物についての学習）
 アルペンスキー指導者（「立山タイム」オリンピックについての学習）
 日の出屋製菓産業立山本社（子供たちのおやつ提供）
 株式会社たてやま（送迎バス運行）

7 日 程

	午 前	午 後	夜
① 11/6 ② 11/13		開校式 オリエンテーション	○みんなとなかよくなるろう<アイスブレイク> ○学校の準備 ○班タイム ○就寝
① 11/7 ～11 ② 11/14 ～18	起床 洗面 朝食	登下校は自然の家のバスや車で送迎 学校での生活 ※11月9日は、小学校が休業日。	○夕食 ○洗濯 ○入浴 ○学習タイム(約1時間) ○立山タイム(約1時間) ・星について学ぼう(11/7 11/14) ・立山の歴史について学ぼう(11/8 11/15) ・野生生物を知ろう(11/9 11/16) ・オリンピックを知ろう(11/10 11/17) ・みんなともとなかよくなるろう <遊びリンピック>(11/11 11/18) ○班タイム ○就寝
① 11/12 ② 11/19	起床 洗面 朝食	みんなで楽しく焼きそば作りをしよう	閉校式

8 参加者からの感想

- 規則正しい生活をしっかりとすると、朝、元気に登校できて心がすっきりした。
- 自分の意見を発表する大切さを学んだ。これからの学校生活に生かしたい。
- いろいろな活動を通して、自分自身が成長できたと思う。昨日の自分より成長できたことをたくさん感じることができた。
- 自分を支えてくれる人がいることを改めて感じた。これからは、自分一人ではできないことも、協力して乗り越えていきたい。
- 人の心を考えることが大切であることを改めて感じた。人を助けてあげる人になりたい。

9 成果

- 今年度は「原則全日程参加」とした。班ごとのまとめや参加者同士の盛り上がりなど、前回以上に本事業の目的が達成された。
- 参加人数は、今回のように「40人程度」で、どんな活動をするにも効果的であった。また、学校の組み合わせは、前回と変更した。毎回、変更をしなければよいと考える。
- 初日のオリエンテーションにおいて、本事業の趣旨や考え方、参加者に付けたい力、がんばってほしいことなどを、分かりやすい言葉で話したり板書をしたりした。このことをきっかけに、徐々に「一つのチーム」ができあがり、参加者一人一人にとって、前向きに進んでいく意識を継続することができた。
- 「投薬チェック一覧表」は、確認のしやすさや間違いを防ぐために有効であった。
- 「立山タイム」の内容を少々見直した。「本物に出会う素晴らしさ」をキーワードにした。大変、好評であったので、来年度以降も、少しずつアレンジしていけばよいと考える。
- 今回、初めて「修了証」を参加者一人一人に渡した。参加者をねぎらう意味からも、継続していけばよい。

10 今後の課題

- 子供たちの仲間意識が高まる1週間なので、班活動中心だけでなく、様々なパターン(全体で、グループで、男女で、など)で語り合いや討論などをして、盛り上がるのではないかな。
- 「洗濯の効果」(意識、自宅へ帰ってからの行動など)は大きいので、よい意味からも、あまり細かく洗濯のやり方や時間、方法などを提示しないのもよいと思われる。
- 「立山タイム」の中で、あえて家庭での雰囲気を入れてもよいだろう。例えば、ゲストティーチャーを呼ばなかったり活動時間の流れをゆったりにしたことで、これまで以上に、夕食時間に余裕が生まれたり、ゆっくりとお風呂に入ったりすることができる。
- 家庭と離れるさびしさや保護者を思う気持ちが、参加者によって差があるため、何らかの有効に働くであろう手立てを打ちたい。例えば、「親への手紙(1週間の折り返しの日に)」「1回だけ、家庭に電話をすることができる」「最終日に親と一緒に野外炊事」などである。



1週間よろしく！



立山の歴史について学ぼう



野生物を知ろう



遊びリンピック



おいしい焼きそばを作ろう



上手に洗濯ができたよ！